

## 平成26年度の事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

### 1 事業の成果

日本ライトハウス情報文化センターへBF版アニメ「ジュノー」DVD寄贈(5月13日)

去年、「ジュノー音楽祭2013」を当会10年間の活動集大成として11月29日、アステールプラザで開催した。その収益金約35万円で、DVDアニメ「ジュノー」を寄贈するプロジェクト＝「愛のジュノー便」取り組みの一環として、大阪の視覚障害者施設の日本ライトハウス情報文化センター(特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会副理事長・日本ライトハウス情報文化センター館長竹下亘さん)へバリアフリー版アニメ「ジュノー」DVD40枚を寄贈。BF版DVDは全国の点字図書館などへ配布された。

「ジュノー記念祭」後アニメ「ジュノー」上映(6月15日)

一般社団法人広島県医師会主催「ジュノー記念祭」のあと、中国新聞社大ホールでアニメ「ジュノー」を上映。親子連れなどが鑑賞した。

イラン毒ガス被害者ら訪広(8月3日～8日)

「広島イラン 愛と平和の映画祭」開催 八丁座(8月2日～8日)

2014年夏、イランからの平和記念式典参加者は、毒ガス被害者6名と、イラン映画監督ら関係者8名の総勢22名。そして念願のイラン映画を広島で8月6日前後、上映することが実現した。この映画祭は、特別協賛「にしき堂」大谷社長や会場「八丁座」蔵本館主とスタッフ、それにスモール・トークのショーレ・ゴルパリアン・ジェネラルコーディネータほかみなさまのおかげ。全作品を鑑賞した広島市の映画関係者も…。

8月4日、前夜遅く広島入りした一行は、午後から昼食歓迎会(広島アンデルセン)へ出席。イランの食習慣に合わせ、魚や野菜の種類、ドレッシング材料まで11年間指定、特注してきた料理を味わい、各部門の代表が挨拶した。その後、8月2日からすでに開始している「広島イラン 愛と平和の映画祭」(八丁座)出席のため全員で会場入り。この日2回目の上映後から、今回の映画祭の目玉で各作品の映画監督や俳優とコーディネータによるティーチイン(Q&A)が行われ、作品を見終わった客席から積極的な質問が出ていた。ティーチインは一行が東京へ向かう前夜の7日の夜まで、合計7作品が各1回行われた。

8月5日朝、毒ガス兵器を製造した大久野島へ。まず毒ガス資料館で毒ガス製造の過程を見学し、慰霊碑に参拝した。その後、広島へ戻り、映画祭特別協賛にしき堂大谷社長や八丁座の蔵本館主を招き、映画祭開幕を祝う昼食会へ出席した。イラン国会議員ビジャン・ノーバウエさんが「広島へ来て、被爆者のことを身近に感じた。当会との友情から日伊映画祭が末長く続くよう願う」と語った。この日、1回目の上映前、舞台挨拶が監督・俳優ら全員で行われ、花束贈呈の後、機転がきく俳優パルウィズ・パラスティエイさんが突然、舞台を駆け下り観客席めざし、自分の花束を毒ガス被害者へ手渡した。続いて観客席へ花が移動。花束が2度、演出を盛り上げた。また、東京から広島到着直後のレザ・ナザルアハリ駐日イラン・イスラム共和国大使も駆けつけ、参事官とともに映画を鑑賞された。

8月6日早朝は大雨となり、世界中から大勢の人が広島平和記念式典に参列する中、おごそかな表情で一行も出席した。その後、平和記念資料館を見学。午後から、「被爆者との集い」へ参加した。今回も毎年お願いしている被爆者3名が駆けつけ、毒ガス被害者と対面。各自3分間、体験談をリレー・トークした。「自分の命は人に与えられたもの。母や友人が亡くなっても、米国を憎みはしない」「平和式典がイベント化されている。被爆者にとって8月6日は祈りの日」「原爆も毒ガスも人体的苦痛。一緒に平和な社会をめざすと、結果的に互いを思いやる心が生まれる」(以上、被爆者)これに対し「(イランの詩を引用し)平和の正しい自分の道を見つけることが大切」「被爆者を手本とし生きていきたい。

協力して被害を世界へ知らせよう」「兵器の使用がなくなることを願う。TPMのおかげで被爆者に会えて感動している」「11年前、医療交流から始まり、今や文化、映画など新しい価値ある行動をし、前進しなければならない」「去年、被爆者の話を聞き、今回、自分の戦争体験を話す決意をした。これまでどうしても話すことができなかった『遺体を遺体と思えない。人間の心を失った』という被爆者と同じ体験をしたことを、語り伝えていくことが人間としての義務だと思った」(以上、イラン毒ガス被害者) 映画監督で一人参加したエーサン・アブディプールさんは「普通はみな平和を唱えるだけ。しかし平和記念資料館で、街が消えてしまったのを見たが、今、市民は希望を持って生きている。悲惨だけで終わってはいけない。よみがえらなくてはならない」と語った。被爆者の一人は、イランの人は性格が明るいことで救われる。冗談を言いながら乗り越えられる、と。6名の毒ガス被害者の中には、手術のため外国を何度も往復しいまだに後遺症に苦しむ人が大勢。今回、被爆者・毒ガス被害者は「平和で止まってはいけない。ここにいるみなを家族と思い、希望を持って前進しよみがえることが大切！」と討論を締めくくった。この後、平和記念資料館志賀賢治館長を表敬訪問。志賀館長は、資料館が4年間の改装に入ったと説明。「展示コースを本館から東館へと、現在と逆のルートにし、じっくり見てもらいたい。将来的に語り継ぐものは、資料館の展示物だけになるでしょうから」と述べた。夜は、灯籠流しへ。一行は原爆ドームを背景に流れる灯籠に、さまざまな思いをはせているようだった。

8月7日昼前、広島市松井一實市長を表敬訪問。松井市長は、SCWVSの11回目の訪問と「広島イラン愛と平和の映画祭」の開催やイラン国内の平和首長会議加盟都市の増加に貢献したことに、当会に対し感謝の意を表した。市長の挨拶へ、SCWVS ナスロラ・ファティアン理事は「初めて広島平和記念式典に出席し光栄。平和宣言に感動した。日本人は豊かな文化の基に暮らしている。イランも大ペルシャの文明を背負っているが、今回、当メンバーはみな、日本に尊敬の意を込めている」と述べた。さらに11年間交流を続ける当会へ感謝の気持ちを伝えた。松井市長は、イランも広島と同様、経験から学んでいる。うらみを越えることが大切、と語った。続いて当理事長が、市長へお礼を述べ、11年間の交流の新しい試みとして「広島イラン愛と平和の映画祭」を開催し、映像を通して広島で世界のメッセージを発信していきたいと語った。また、平和教育や文化活動など、イランで行える平和首長会議のアクションをつないでいきたいと願い、個性が豊かな各国の加盟都市がイランのプランも参考にし、活動してくだされば幸い。平和首長会議の活動には映画上映も含め個性的で自主的な活動を推進してほしい、と願いを伝えた。ノーバウエ国会議員は、映画祭開催にあたり観客動員やPRなど、松井市長へ協力を要請した。記念品交換で、イランの古代人道法が刻まれた置物が市長へ贈られ、映画製作会社モーセン・モメニ会長は、今後も映画で平和を語りたいと述べた。その後、TPMの平和首長会議加盟都市担当者レザイさんが、6月以降加盟したイランの3都市中の1都市の認定書を受領。午後は宮島観光と買い物へ。一方、映画監督らは被爆者との会見を熱望し、宮島口で取材を行った。その後、映画祭最後の上映へ駆け込んだ。広島滞在最後の上映終了後、舞台上で映画製作会社モメニ会長から当理事長へ、このたびの映画祭開催のお礼のペルシャ絨毯が贈られた。その後モメニ会長主催の夕食会后、全員がホテルロビーに集まり、最後まで別れを惜しみ夜半まで、一人一人スピーチを行った。

翌朝、広島駅で見送り、一行は東京へ向かった。

アニメ「ジュノー」 NHK Worldで約140の国・地域でTV放映(8月9~10日)

8月9日午前9時10分(日本時間)から4時間おきに1日計4回、NHK Worldでアニメ「ジュノー」が放映された。「JIB日本国際放送のモニター調査」(資料提供)によると、世界のモニター視聴者71人中34人から、感想文とポイント評価が届き、ポイント評価項目の内、「テーマ」についての平均点は、5点満点中4.9点、また「総合評価」の平均点は5点満点中4.6点という高い評価が得られた。中でもエジプトのモニター(20代女性・大学職員)からは「このアニメの中心にあるテーマは素晴らしい。愛・努力・忍耐・粘り強さ・一貫性、そして勇気は、人種や性別や宗教を超える人類の普遍的なテーマだ。また、愛だけでは不十分であり、愛を守り育むための勇気が大切だというメッセージの伝え方も良かった。さらに、ジュノー博士と同じことをする必要はなく、助けを求めている人々に救いの手を差し伸べ

ることこそ、ジュノー博士の軌跡をたどることになるというヒントを与えていた点も良かったと思う」と熱い思いも寄せられた。再放送が来年の夏までにもう1回予定されている。

広島大規模土砂災害で広島市へ募金支援（8月27日）

8月20日未明に発生した広島市北部の大規模土砂災害復興のため募金支援活動を行った。

平和首長会議へDVD4本納品（9月8日）

世界の子どもたちへ平和の大切さをアニメで訴えようと、広島市はアニメ2作品のDVDを、平和首長会議の加盟都市へ無償貸し出しすることにした。アニメ「ジュノー」が、2本中の1本に選ばれた。

広島市の中学校へアニメ「ジュノー」DVDを寄贈（10月22日）

「愛のジュノー便」の一環でアニメ「ジュノー」DVD5枚を、広島市教育委員会へ寄贈。広島市立東原中学校、牛田中学校、戸坂中学校、古田中学校、幟町中学校へ届けられる。

「ジュノー音楽祭2014」 県民文化センターで開催（11月9日）

こととして11回目となるジュノー音楽祭が11月9日（日）広島県民文化センターホール（広島市中区）で開かれた。

第一部は、イランのソプラノ歌手パリ・ザンギャネさんによる平和の歌声。第二部はNHK広島児童合唱団によるかわいらしい歌で会場はとても楽しい雰囲気にも包まれた。パリさんと合唱団による日イコラも行われた。

このチャリティーコンサートの収益金約50万円は、「愛のジュノー便」プロジェクトの一環でアニメ「ジュノー」DVDを広島市中学校寄贈などへ使用予定。

スイスの若手音楽家育成アヤメ基金を支援（3月19日）

若手音楽家育成アヤメ基金（在スイス・バーゼル代表野川等さん）主催「平和への祈り 広島・長崎 被爆70年 パイプオルガンコンサート」が2015年3月19日広島市幟町教会で開催された。当会が後援となりチケット20枚（2万円）を購入。スイスとの平和の文化交流を支援。